

### 1 「多文化共生について」

日本で生活している外国人の生活環境、社会環境、外国人籍の若者の問題や現状についての理解。

### 2 「社会資源の活用及び連携の重要性」

アウトリーチを行い支援していくために、普段からの情報収集や、準備、社会資源との繋がりは必須であり、様々な問題に対処出来ようなる連携することが支援の幅を広げていく。

### 3 「国勢調査や学校基本調査等を利用した実態把握」

外国人籍の不就学の児童生徒数を知る為に統計を利用し、算出することで不就学の実態を予測し、把握することでアウトリーチへ繋げる。

### 4 「信頼関係の重要性」

対象者、対象者家族、関係支援機関等との良好な信頼関係を結ぶことでスムーズな支援を行う事が出来る。そのために個人間の繋がりを大切にし、丁寧な支援を行う。

研修生⑩

調布市こころの健康支援センター

## アウトリーチ研修

調布市こころの健康支援センターでの学び

平成25年度内閣府アウトリーチ

研修生

発達障害児・者及び支援家族の会

## 研修期間

第1期 平成25年9月9日(月)～9月14日(土)

第2期 平成25年10月22日(火)～10月27日(日)

■センターでは多様なプログラムが実施されている。その中で、アウトリーチの研修に有効と思われるプログラムが集中している期間を選出していただき第1期、第2期の2つに分け、それぞれ6日間ずつ研修に入らせていただいた。

## 研修場所

### 調布市こころの支援センター

住所：東京都調布市布田5-46-1

設立目的：こころの病、精神障害のある調布市民  
の自立と社会参加の支援、精神保健の向上。

対象者：18歳～65歳未満の調布市民。

アウトリーチの特色：生活状況や安否確認、サービス  
調整を目的とする。医療中断、  
近隣苦情などの困難ケースは保  
健所、市役所と連携。

平成24年訪問実績：延べ234件、実数122件

職員：17名（常勤12名 非常勤5名）

# プログラムカレンダー（実施例）

調布市こころの健康支援センターの7月のプログラム（0000日よりから）

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
<b>1*</b> ハンドメイド クラブ 13:30~15:00	<b>2*</b> ミニト	<b>3*</b> タイム パソコン研修会 10:00~12:00	<b>4</b> ジャスミン ミニト	<b>5*</b>	<b>6</b> 市田わくわく お声ひらび 13:30~15:30	<b>7</b> 閉館日
<b>8*</b> お昼 12:30~15:00	<b>9*</b> ミニト 女子会 14:00~15:00	<b>10*</b> タイム	<b>11</b> ジャスミン ミニト	<b>12*</b> パソコン はじめの一歩 13:30~15:00 サロン 12:00~12:00	<b>13</b> 〔祝〕 敬老の日 14:00~16:00	<b>14</b> 閉館日
<b>15</b> 閉館日 〔海の日〕	<b>16*</b> ミニト	<b>17*</b> タイム パソコン研修会 10:00~12:00 夕食会 17:45~	<b>18</b> ジャスミン ミニト	<b>19*</b> 元氣はつらつ 運動会 10:00~14:00 「詳しくは 2ページをご覧ください」	<b>20</b> こころの 健康講座 14:00~16:00 「詳しくは、1頁 をご覧ください」	<b>21</b> 閉館日
<b>22*</b> アーム&レク 11:00~12:00 サロン 12:00~13:00	<b>23*</b> ミニト 家族学習会 13:00~15:00	<b>24*</b> タイム	<b>25</b> ジャスミン ミニト	<b>26*</b> うたごえ講座 13:30~14:30	<b>27</b> 〔祝〕 敬老の日 14:00~16:00	<b>28</b> 閉館日
<b>29*</b>	<b>30*</b> ミニト	<b>31*</b> タイム	〔祝〕 敬老の日 SST は中止しお休みです。 お詫言はホームページをご覧ください。			

## 今回の研修プログラム

- グループワーク
- グループSST
- デイ事業
- 当事者ミーティング
- アウトリーチ
- 事例検討会
- 家族支援
- 家族学習会
- 地域交流事業

## グループワーク

- グループワークは3つのグループがある。
- ①ミント・・・週2回、企画、運営なども自分らで担う、センター卒業近くの人たちのグループ。
  - ②タイム・・・週1回、ゆっくり活動するグループ。
  - ③ジャスミン・・・週1回、ゆるやかな枠組みで活動するグループ。



空気砲によるチーム戦



小麦粉からのピザ作り

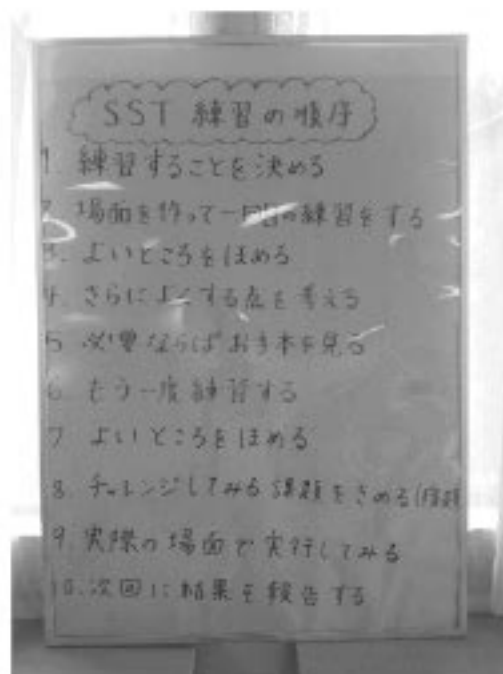
目的：固定したメンバーで、対人関係や生活技能など、自立と社会参加に必要な力をつける訓練をする。

利用期限：おおむね3年まで

活動内容：調理、ゲーム、スポーツなどグループで一緒にする企画。

## グループSST

- SSTとは、Social Skills Trainingの略で、認知行動療法の考え方をもとに、生活の課題を解決できるように練習するプログラムのこと。
- センターでは3回連続のシリーズで開催。1グループ4名位の人数に分かれ対人場面での会話を練習。



SSTの練習の順序などは視覚的に提示されていた

## デイ事業



デイルームは月・火・水・金曜の  
10:00～15:30に開所される。

相談により計画をたて、支援員の見  
守りの中で、仲間との交流や個人作  
業が行える。



大きなテーブルでは、  
談笑したり本を読んだり  
トランプなどをして交流。



パソコン、使用済み切手の再利用、テーブルタップの組み  
立てなど、個人で作業の自習ができるようデイルームは構  
造化、視覚化されている。

## わくわくひろばまつり

社会福協議会の小地域交流  
事業として、小中高の児童  
生徒を含めた地域の人々で  
企画されている。地域のこ  
どもからお年寄りまで世代  
をこえて交流。

10ヶ所のブースと18個のプ  
ログラムが実施された。



地域に住む人々が、こころの病や精神障害  
をもつ人々と一緒に活動する場を作ること  
で、地域支援の土壌が育つ。

## まとめ①アウトリーチ

- ・アウトリーチは目的により内容が異なる。

研修先である調布市こころの健康支援センター（以下こころセンターとする）のアウトリーチは生活状況や安否の確認、サービス調整のための訪問が目的であった。目的により、支援内容には学習支援が入ったり、家族支援が入ったりと異なる。

その目的は、相談者の主訴と当事者の状況により変化すると考えられ、それらに依存していると考えられる。

また、アウトリーチの対象者とは、当事者ひとりのみではなく、当事者に関わる家族の成員すべてと考えることが必要である。家族の力動に働きかけることができる支援を構築していかなければならないのだと思った。

## まとめ②居場所

- ・目的により居場所での対応が異なる。

アウトリーチによる支援には、対象者にとって寄り所となる居場所の提供が必要とされる。居場所の機能や、支援者と対象者の関係の持ち方はその目的によって異なる。そして、その目的は、対象者の自立の段階によって変化する。すなわち自立度に依存すると考えられる。

初期の社会参加の練習をするための居場所は次のステップへの移行のための場所であり、それぞれの関係性が深くなることで滞留の場にならないよう配慮が必要である。社会に復帰してから、精神的な支えとなるための居場所は、サードプレイスとしての機能を持ち、連帯感を得たり、安心感を得ながら、こころのリハビリテーションやメンテナンスをする場であると考えられる。

今回の研修により居場所づくりにおいても、支援の中での関係性づくりにおいても、支援者は常に目的を意識することが重要であることを学んだ。

## 最後に

- 発達障害についての理解が重要。

今回の研修では統合失調症の診断をもつ方々と何日も一緒に活動することができたり、学習会へ参加することで、病気についての新しい知見を得ることができた。しかし、発達障害と統合失調症については、専門家の間でも意見が異なっているとの想いを深めた12日間であった。

平成19年の特別支援教育法の設置により教育分野においては発達障害への理解が深まり、支援も年々増えてきている。しかし、福祉分野における理解はまだまだ足りないと感じている。今後のアウトリーチの研修においても、発達障害の理解のための研修の場を多く用意していただけることを願う。

## アウトリーチ研修

平成25年9月16日～9月27日



親と離れて人となる  
はぐれ雲実地研修

非営利特定法人  
信州サポート事業和実塾